リレーエッセイ

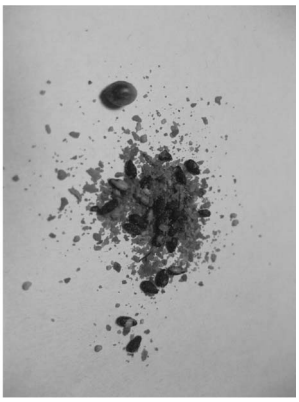
そんな堅苦しい話は抜きにして…

名古屋大学の財津　桂先生よりバトンを引き継ぎました東京都健康安全研究センターの鈴木　仁です。財津先生とは学会の発表を通じて知り合って以来，御指導御鞭撻を頂いております。解決しなければならない問題点はほぼ同じでありながら，その解決手法がいつも異なることから，学会発表の場ではいつも『軽い』ジャブの応酬です。また，科学捜査研究所と地方衛生研究所の職場代表として，シンポジウムの話題提供者としてお互いに呼ばれたこともありました。一方で，発表が終われば酒を飲みながら仕事や阪神タイガースの話で盛り上がります。私は彼より9歳年上であることから，『財津君』・『仁さん』と呼び合い，旧知の友人のように話をしています。

私は故井上ひさし氏と同じように遅筆であり，財津先生もよく依頼してきたものだと思います。こどものころから筋金入りの鉄チャンである私は，これでいこうと思ってバックナンバーを読んだら，2月号に角田先生の『丸ノ内線』の話が…。残念…。では，小学生のころから慣れ親しみ，大学時代には萩本欽一氏の聴取者参加型番組にも出演したこともあるAMラジオ放送を題材にして話をしていこうと思います。

皆様は，『全国こども電話相談室』という番組があったのを御存知ですか。TBS系列で，私が生まれる前からごく最近まで40年以上放送されていました。質問者であるリスナー（小学生・中学生）が日頃疑問に思っていることを大人に質問し，そのやり取りを生放送する番組でした。私は，レイルウェイライター種村直樹氏の登場する回が好きでした。全国の鉄チャンはここぞとばかり質問をしてきたように思います。しかし，世の中のこどもは様々なことを考えて質問してきました。大人が失ってしまった『無邪気な』質問ほど，大人は答えにくいものです。ホームページに問答集があるのでご覧いただければよく分かると思います。かつては『きょうだいが欲しいのですが，どうしたらいいですか?』，なんていう小学校低学年の子の質問もありました。このようなときは，明星学園の教頭を務め僧侶であるレギュラー回答者の無着成恭師に振られることが多かったように思います（いわゆる無茶振り）。『そんなこといずれわかるよ!!』というような言い逃れはせずに，質問者の心身の成長レベルに合わせて，見事に答えていく（切り抜けていく）のです。大人になってみれば，師の回答が『思わずクスッと笑えるもの』になると思います。

私も中学生・高校生・大学生・一般の方を前にして，担当業務である違法薬物の分析について話をする機会が多くなってきました。もちろん，相手の知識のレベルもそれぞれであるため，学会発表の調子で専門用語を並べたてても理解していただけません。特に最初の段階で『難しい』話をしてしまうと，はるかに遠い世界の話として受け止めてしまい，逆に耳を閉ざしてしまいます。



持ち時間も5～15分，『時間が足りないよ!!』というようなことは口が裂けても言えないのです。そこで，最初に身近な話をして，その後の『難しい』話を気楽に聞いていただけるようにしています。違法薬物の場合に持ち出す話は，銀座のアンパンの話や立ち食いそば屋の七味唐辛子の話です。写真のアンパンの商品名はそのものズバリ「けし」，阿片やモルヒネの原材料であるケシです。ふりかかっている小さい粒がケシの実です。写真の七味唐辛子に入っている上部の丸い粒は麻の実，大麻の種です（もちろん，芽が生えてくることはありません）。この時点で，違法薬物に関するものが身の回りにあることを御理解いただければ，『つかみはOK』なのです。最後に，『見た目で判断できないところは分析化学を通じて違法薬物の排除に努めていくのであります』と言って締めくくります。あくまでも，私たちの仕事は暮らしの安全・安心を守ることなのであり，分析化学はそれを実行するための手段なのです。分析化学のユーザーは往々にして分析化学の説明をしてしまいがちです。くれぐれも『クロマトグラフィーにより化合物を単離精製しNMRで構造決定をしている…』なんてことをいきなり話し出すのは御法度です。

偉そうなことを書いてきてしまった私ですが，本年1月に『ぶんせき』誌に『展望』を執筆させていただきました。科学捜査研究所の方や地方衛生研究所の方，いわゆる『同業者』から『見たよ!!』と言っていただきました。非常にありがたい話です。一方で，職務に直接関係ない方の意見を率直に伺いたいと思います。お叱りの言葉・励ましの言葉は『ぶんせき』編集部までお願いします。

次のリレーエッセイは，大学時代の同期生である昭和薬科大学薬学部衛生化学研究室教授小椋康光先生の御紹介で，同研究室准教授阿南弥寿美先生にお願いし，御快諾いただきました。阿南先生，よろしくお願いいたします。

〔東京都健康安全研究センター　鈴木　仁〕